令和元年度岐阜県地域づくり人材養成講座・垂井町まちづくりリーダー養成講座

「垂井・未来宿」　第１回ワークショップ開催概要

日　　時	令和元年１１月１６日（土）　１３：３０～１６：００
場　　所	垂井町役場 垂井ホール
講 師 等	コーディネーター：NPO 法人せき・まちづくり NPO ぶうめらん　代表理事　北村 隆幸 氏 講演講師 ・ 総評：岐阜大学工学部社会基盤工学科(環境コース)　教授　髙木 朗義 氏
参加者等	２２名（受講者２０名、オブザーバー２名）
主 催 者	岐阜県環境生活部県民生活課 垂井町まちづくりセンター
内　　容	◆開講式 １　講師等の紹介 ２　講座の趣旨説明（県担当者、町担当者） ３　挨拶（垂井町長） ◆第１回講座 １　講演 演題：「協働と共創のまちづくり」 講師：岐阜大学工学部社会基盤工学科(環境コース) 教授　髙木 朗義 氏 ▲講師の髙木先生 どんな心構えでまちづくりに取り組むとよいかを実際今行われている活動を交えて、お話いただきました。たくさん活動を紹介していただきましたが、紙面の都合上抜粋しています。 〇移住で人口を増やすことはできない ・日本全体で人口減少進む中、仕事があり、高給与の都会には経済面では敵わない。そのため、別の観点での魅力づくりをする必要がある。 ・その地域について知らない人たちに「移住してください」と言っても来てくれない。知らない人に「結婚してください」と言っているのと同じ。地域も情報発信をして、知ってもらう努力をしないといけない。 〇関係人口が注目されている ・移住した「定住人口」でもなく、観光に来た「交流人口」でもない、地域や地域の人々と多様に関わる人々のことを「関係人口」という。 ・地方圏では関係人口と呼ばれる地域外の人材が地域づくりの担い手となることが期待されている。 ＜事例：郡上市＞ 人、暮らし、自然や文化などの地域資源を活用した内発型の新しい産業を創出する「郡上カンパニー」を実施。地域の人だけでなく、高校生や名古屋、東京などの都市部の人たちにも参加してもらっている。毎年１０前後のプロジェクトが動いており、ビジネスにつながっているものもある。 ポイント１：参加者に自主的かつ継続的に関わりをもってもらう。そのために、現地で遊んだり（現地エクスカーション）、地域住民や団体と意見交換や情報収集をしてもらったりしている。 ポイント２：参加者が自発的にコミュニティを形成するようになり、独自で市を訪問したりするようになる。また市からも意識的に情報提供や、定期的にオンラインミーティングを実施している。 ポイント３：「関係人口管理システム」を構築し、参加者個々の市への関わり度合いに応じた情報提供を実施している。

〇高校生が関わっているまちづくり
＜高校生が行っている事例：全国高校生マイプロジェクト＞
・高校生が、まちのために「こんなことをしたい！」と思って行っていることを「マイプロジェクト」という。
・発表会が行われたり、現在進行中のプロジェクトがホームページに掲載されたりしている。

＜地域×高校生の事例：関ジモト大学＞
・地域の高校生を対象に、地域の仕事や会社、人のことを学んでもらう体験講座。
・地域のことを知らないから地域外に出ていく若者も多く、地域のおもしろさや魅力を知ってもらい、地域で働き、暮らすことも選択肢の１つに入れてもらうことを目的としている。

〇これから取り組む上で必要なこと
・どういう人をターゲットにするか明確にする必要がある。若者と言っても、年代、性別、地域内外等いろんな人がいる。
・そもそも自分たちなら住みたいか？自分自身に問いかける視点も必要。
・興味を持たないと人は動かない。まずは知ることそして伝えることが必要。
・若者が集まると何が良いのか？そんな視点も必要。
・「やること(手段)」が目的になってはいけない。どんなまちにしたいのか、そこに向かって動く必要がある。
・まちづくりはビジネスにならない限り、お金という報酬はない。自分が動くことによる満足感や達成感が報酬となる。そのため、「自分」が主体的に楽しみながらやらないと続かない。

２　体験談・エール
　今回オブザーバーとして参加していただいている垂井町の職員であり「天下無双東西最強痛車決戦」プロジェクトチームエグゼクティブプロデューサーの中村文彦氏より、痛車イベントを実施するまでの苦労やプロセスをお話いただきました。

オブザーバーの中村氏

３　ワークショップ

コーディネーターの北村氏

コーディネーター
　NPO 法人せき・まちづくり NPO ぶうめらん
　代表理事　北村 隆幸 氏

〇発表
　垂井町の課題や、さらに発信していきたい垂井町の魅力を考え、１人ずつ発表しました。

＜主な意見＞
①相川・環境：相川をみんなで楽しめる場所にしたい。ゴミがよく捨てられている。
②交通の便：電車の本数が少ない。幹線道路以外の道が狭い。
③観光的な垂井の魅力発信：南宮大社に通常時人が少ない。若者向けの観光パンフレットがない。「垂井って何があるの？」と聞かれても自信をもって答えられるものがない。
④若者が垂井を楽しむ：若者が楽しめる場所やお店、イベントがない。大型施設がない。
⑤地元のことを知らない：まちのことを知らない。まちのことを知ろうとしていなかった。
⑥子どもたちの遊び場が少ない（場所やイベント）。
⑦町の担い手が少ない。

〇グループ分け
　皆さんから出てきた意見の中で、特に多かった①相川・環境、②交通の便、③観光的な垂井の魅力発信、④若者が垂井を楽しむ、⑤地元のことを知らない、の５つのテーマについて取組むことになりました。
　自分の取り組みたいテーマのテーブルつき、メンバー同士で自己紹介を行いました。

	○総評（髙木先生） ・自分のやりたいことを明確化し、そして他の人の考えを知れたのはよかったのではないか。 ・プロジェクトは、自分が楽しみながら、主体的に取り組んでいくことが大切。 ・現在、様々な場所で、いろんなことが行われており、インターネットにも多くの情報が掲載されている。まずは自分がやりたいことを、よく調べるとよい。 ・自分でゼロから創るのは難しい。既存のもののよいところをマネしてみるとよい。いずれにせよ、よく調べる必要がある。